



文京三中だより



教育目標 自ら考え、進んで学ぶ人 思いやりのある、心豊かな人 ねばり強く、心身ともにたくましい人

文京区立第三中学校 〒112-0003 東京都文京区春日1-9-31

電話 03-3814-2554 FAX 03-5689-4556 HP <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/daisan-jh/>

いじめゼロへの取り組み

校長 阿部 昭彦

1、「第三中いじめゼロキャンペーン」

いじめは、どこの学校においても、どの生徒にも起こりうるものです。いじめから一人でも多くの生徒を救うためには、生徒たちが「いじめは絶対に許されない」と認識し、その風土を培っていかねばなりません。そこで、「第三中いじめゼロキャンペーン」として、各学級でいじめ撲滅の標語の作成を通して、いじめの防止や解決のために生徒一人一人に何ができるかを生徒が話し合い、より良い学校生活づくりのために、学校全体で取り組みました。以下各学級で作成された標語です。

「笑ってても 嫌かもしれない その一言」	1年A組
「手を伸ばそう きっと誰かが 困っている」	1年B組
「いじめって 利点無さすぎ やめとけよ」	2年A組
「そのいじめ 人の未来を 壊してく」	2年B組
「いじめだと 思うだけじゃ 終わらない」	3年A組
「大丈夫? その一言で ヒーローに」	3年B組

標語は作って終わりではありません。作ったことで、生徒一人一人の心に刻み、心を成長させる教育を継続します。

2、「いじめ防止授業」の開催

第一東京弁護士会のご協力をえて、下記の日程で「いじめ防止授業」を行います。授業の内容は、いじめとは何か、なぜいじめはいけないのか、いじめられる側も悪いのか、いじめは一体どんな事態を引き起こしてしまうのか、いじめを止めるためにはどうすればいいのか。弁護士の方から実際に過去に起きてしまったいじめ事案や裁判例等を紹介され、いじめを防止するために必要な考え方を学んでもらいます。

いじめ防止授業の日程

- 日時 平成30年3月5日(月)
13:25~14:15 (5時間目) 第2学年
14:25~15:15 (6時間目) 第1学年
- 場所 各教室

保護者の方の参観もできます。生徒がどのような授業を受けるのかをご覧ください、ご家庭でも相談や話し合う機会としていただければと思います。

3月行事予定		
日	曜	学校行事
1	木	都立発表 1・2年領域診断テスト
2	金	1年東京寺子屋 特別時間割
3	土	
4	日	
5	月	朝礼 避難訓練
6	火	3年素点提出
7	水	職員会議
8	木	安全指導 3年球技大会・救命救急講習会・特別時間割
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	保護者会 6カット 1年球技大会 1・5チェンジ
13	火	3年校外学習 2年球技大会 1・2年式練習
14	水	卒業を祝う会 PTA 実行委員会 PTA 総会
15	木	卒業式予行 学年会
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	卒業式準備
20	火	卒業式
21	水	春分の日
22	木	学年会
23	金	修了式 職員会議
24	土	
25	日	春季休業日始
26	月	

薬物乱用防止



2月17日（土）授業公開日の1校時、1年生から3年生まで薬物乱用防止講座の学習をしました。当日は、富坂警察署の担当の方々にお越しいただき、薬物の怖さやなぜ薬物を使用してはいけないかなどをDVDやプリントで丁寧に教えていただきました。普段目にする事のない覚せい剤容量見本も資料として、生徒たちに見せていただき、とても貴重な経験をしました。

生徒たちは、改めて危険薬物を使用してはいけないことを実感していました。講座受講後に書いた感想文の中には、自分自身が危険薬物に溺れないようにするだけでなく、友人や家族にも危険がおよばないようにしたいというものがああり、少し視野を広げて、周りへも注意をうながせるようになりました。



「和食の日」

文京区では、ユネスコ無形文化遺産登録された世界に誇れる「和食」の保護・継承と、情報発信できる子供を育成するため、平成29年度より学期に1回「和食の日」給食に全校で取り組んでいます。

2月8日（木）本校に、日本料理「賛否両論」の店主である笠原 将弘さんに来校していただき、調理室で調理をしてくださいました。この日は牛乳ではなく日本茶を用意し、本格的な和食献立を給食で体験できました。

生徒の感想

- 給食室から出汁の香りがすごかった。
- ぶりの唐揚げが柔らかかった。その上にかかっていた大根のあんかけが優しい味だった。
- 金平の語源を初めて知りました。
- じゃが芋と小松菜の味噌汁がいい香りでした。



校長室での会話

校長「なぜ、和食の道に進まれたのですか。」

笠原さん「父親が居酒屋をやっていて、いつも和食が身近にあったからと、洋食には世界大会があるけど和食にはありません。その和食の世界で、世界一になりたかったからです。」

校長「次の目標は？」

笠原さん「和食をもっと広めたい。そのためには、多くの人に和食の技術を広めたい。和食を究めようとする人が少ないのが残念です。」